3　龍岡城跡

指　定	国　史　跡	昭和９年５月１日
所在地	田　　　口	
所有者	佐　久　市	

昭和９年（1934）国指定の史跡である。信州佐久に１万２千石、三河の奥殿（岡崎市）に４千石の封地を持つ三河奥殿藩の松平氏は、宝永元年（1704）以来160年間三河に本拠を持ち、佐久には陣屋を置いて、領内25カ村の統治をつづけてきた。

11代乗謨になって幕末激動の状勢に応じて、信州に本拠を移すことを計画し、陣屋を置いた田野口の地を適当と認め、文久３年（1863）６月新陣屋建設を決め、元治元年（1864）に着工、慶応３年（1867）竣工、用地１万余坪は田野口村より、石材木材などは領内より献納、総費用は４万両余であった。

藩主乗謨は学才識見ともにすぐれた英主で、幕府の陸軍奉行・老中格・陸軍総裁などの要職につき、急進的開国論者であり洋学に詳しく、練兵は他藩に先んじてフランス式を採用していた。

このため陣屋建設にあたっては、フランスのボーヴァン将軍が考案したといわれる稜堡式築城法を採用し、築造されたのが五稜郭である。この龍岡城五稜郭は、函館の五稜郭とともに、わが国の貴重な洋式城郭である。この築城様式は火砲の進歩に伴って近代要塞に一歩近づいたもので、突角部に砲座を設け各稜堡から十字砲火をもって攻防することを目的としている。

廃藩後明治５年(1872)、城はとりこわしになったが、さいわい濠と石塁、建物の一部お台所が城内に残された。そのほか大広間、書院、東通用門、薬医門なども当地に分散残存している。